

# 児童がインターネットを利用して、学習を進める際の問題点と その解決法についての一考察

## A Consideration of Problems and its Solutions while Students in Primary School Exercise using Internet System

中川 斉史

Hitoshi NAKAGAWA

三加茂町立三庄小学校

Sansho Elementary School, Mikamo-cho

最近、教室にもインターネット接続のパソコンをとという声がある。本校では、数年前から教室とメディアセンターにインターネット接続のPCを設置し、実際の授業で様々に利用してきた。今まで起こってきたいろいろなインターネットに関する問題を、機器環境の面と、授業形態の面から事例をあげ、どのように解決していったかを述べる。

学校教育    教育メディア    情報検索    インターネット    ネット

### 1 はじめに

本校(徳島県三加茂町立三庄小学校)は、5年前より毎年コンピュータ等の配備を充実させ、情報教育を中心に実践してきた。近年、中教審答申を受け、「総合的学習の実践の中でのメディア活用」と題して、実践研究を積んできた。

子どもは、調べ学習を中心とする活動の中で、インターネットをかなりの頻度で利用する。また、開放時間帯などでは、ほとんどの子ども達は、インターネットを利用している。これだけ多くの時間をインターネットの利用に費やしている以上、数々の問題が生じてきた。

そこで、本校で生じてきたインターネット関係の問題を具体的に紹介し、どういった解決をしていったかについて述べる。

### 2 研究の方法

本校6年生児童(男子15名、女子28名)に、無記名の質問紙を配り、解答した結果を、集計し考察した。また、これまで経験してきた問題点を整理して、考察に盛り込んだ。

### 3 結果と考察

インターネットを教育現場で使う場合の問題点は、これまで数多く指摘されてきたが、ここでは、一つ一つを取り上げ、何が問題なのかを、本校のアンケート結果と事例を取り上げて、考察する。

#### 3-1 漢字表記

インターネットのホームページは、誰を対象にしているかといえ、やはり一般的

大人を対象にしているものであろう。小学生には、漢字ばかりのページはむずかしい。いったい自分たちが調べようとしていることに関係あるかどうかの判断もできないような、本当にむずかしいページがたくさんある。そのため、インターネット利用した調べ学習の実践では、TT（チームティーチング）を組んだり、別の漢和辞典ソフトを併用したりしていた。しかし、あまりにも手間がかかりすぎ、本来の授業の目的にまで達せないことが多かった。これらの問題は、各種実践校で数多く報告されている問題点である。

そこで、ふりがなソフト「ドクターマウス」（ジャストシステム）を使い、その効果子ども達に質問してみた。

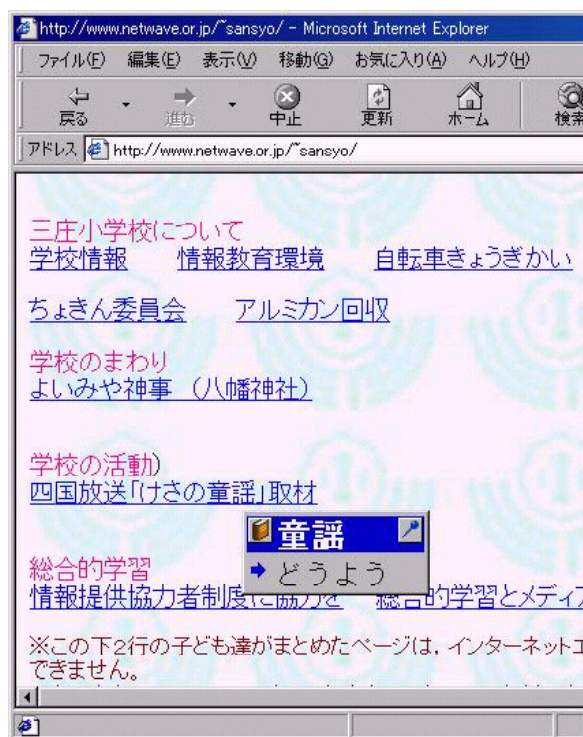


図1 ドクターマウスの実際

### 3-1-1 ドクターマウスの概要

ドクターマウスは、windows のアプリケーションで、起動しておけば次のような動作を行う。画面上のテキスト上にマウスをもっていくと、マウスが置かれている部分の漢字の読み仮名が表示される。(図1参照) さらに、そのサブウィンドウには、各種辞書が選べるようになっており、国語辞典を選べば、その言葉の意味が表示される。また、英和辞典を選べば、和訳がでる。

### 3-1-2 子どもの感想

図2に見られるように、このソフトを使ってみての子どもの感想では、+評価（便利だ）をしている数が多い。しかし、その数には、男女差が見られる。

これは、後にでてくる3-6の結果とも関係しているが、男子は、ゲームをする頻度が高く、インターネットにおいて、文字情報をあまり必要としていない。むしろ、常駐によって、動作が遅くなることなどへの批判があったものと思われる。(図3)

しかし、特にインターネット上の漢字の多いサイトを、子ども達がさがす場合には、非常に強力なツールとなることがわかった。しかし、発売間もないソフトなので、今後の改良がさらに期待できる。

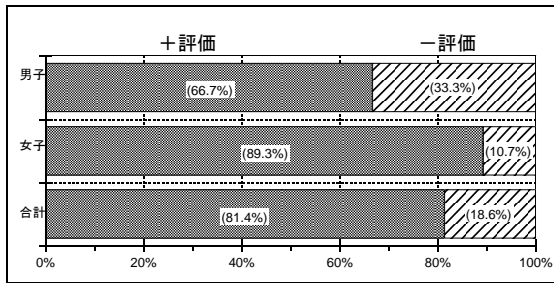


図2 ドクターマウスの評価

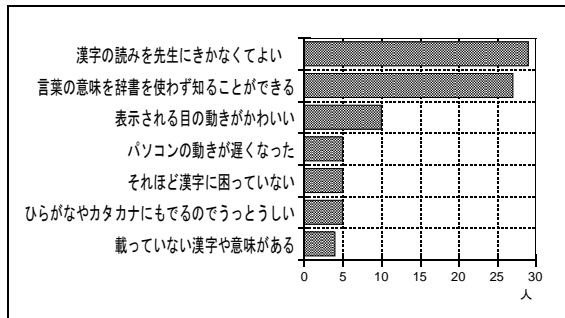


図3 ドクターマウスを使つての感想

### 3-2 検索エンジン

子ども達は、自分たちが調べたい内容をキーワードにし、何らかの検索エンジンを使って言葉を調べるが、その方法の指導やサイトの性格などで、思うように検索ができないという声があがっている。子ども達のアンケートから、検索エンジンのあり方を探った。

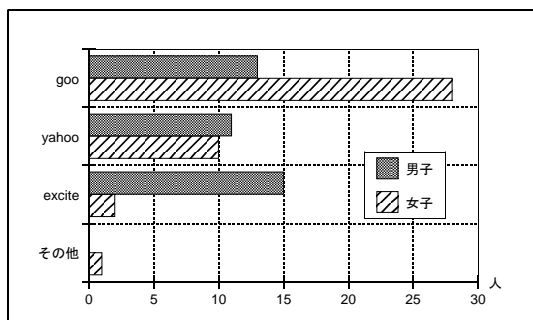


図4 児童がよく利用する検索サイト

図4に見られるように goo ならびに、yahoo がたくさん利用されているが、これ

は、本校の開始ページにリンクを張っているためである。しかし、その利用は、男女に差がある。これも、男子はゲームを中心にさがすため、項目別に並べられている yahoo の方が利用が多いと思われる。また、女子は、それよりもキーワードを入力し、何らかに関係のあるものをさがすことを楽しんでいるようである。excite に関しては、開始ページからは、リンクを張っていないが、誰か見つけた子どもが、ブックマークに入れているのを新鮮な気持ちで使っているため、数字が大きくなったものと思われる。

ところが、検索で気になることをきいたところ、図5にあるように、どの部分に自分のキーワードが合致して結果が返ってきているかについて、わかりにくいと感じている。これは、ロボット型検索を多く利用しているためであるが、ヒット数が増えることの裏表である。また、検索画面での英語表記の多さには、子どもも使いづらいと感じているということがわかった。

これらをふまえ、目的別に検索サイトを選ぶ方法や、ヒットされた記事とキーワードの関係についてさらに、指導が必要であるということがわかった。

### 3-3 チャット

いつの間にかチャットをする子供が増え、現在女子の間で大変はやっている。(図6)それに伴い、見よう見まねでチャットへ参加し、マナーの悪さを指摘されたり、警告のメールが来たりしている。

また、ダイヤルアップルータを利用し、チャットへ参加すると、同一IPアドレス

からのアクセスとなり、同一人物が「チャット荒らし」目的で入室しているのではないかと、疑われ大変つらい言葉をかけられた子どももいた。子どももはじめての経験で、いわれている意味が全く分からず、暴言を吐いてしまった。そのため、チャットの運営者から、強制的に入室禁止を受けた。

IPアドレスについては、運営者に説明をしたが、一部の参加者が未だに疑っている。チャットの場合、大学生や社会人が多いのだから、小学生相手にマナーを教えるくらいのつもりをもってほしいと思った。

今回の件で、2名からメールをもらった。一人は、学校側の指導の不十分さを指摘し、まるで喧嘩腰。(メールの例1) もう一人は、子どもに対して大人としてのマナーの教育を考えたアドバイスのメール。(メールの例2)

### メールの例1

もう少し上層部へ報告しないといけないようですね。

教育委員会あたりでいかがでしょうか  
大変な問題になりますよね。

くいとめられなかったあなた方の責任  
ですよ。

### メールの例2

チャットでの言葉使いは丁寧に。  
不快な言葉使いは止めましょう。  
そうしないと、荒らしと認定されて  
アクセス制限かけられるぞ。  
それでは。

(いずれも、文意を損なわない程度に細部を変更)

いわゆるネチケットを教える学外講師としてのチャットの存在がこれから注目されるのではないだろうか。

チャット上での会話は、常に教師側が毎日監視することができないし、ログも残らないので、チェックが不可能である。そこで、校内のプロキシサーバを通るテキストデータだけをログとして残し、再現できるようなシステムを今提案し、チャット監視に役立てようと計画しているところである。完成したら報告をしたいと思う。

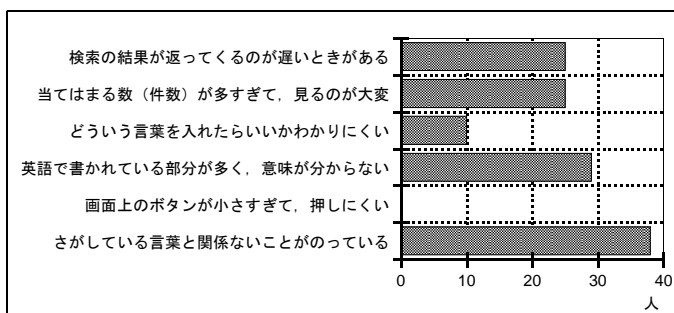


図5 検索をして気になること

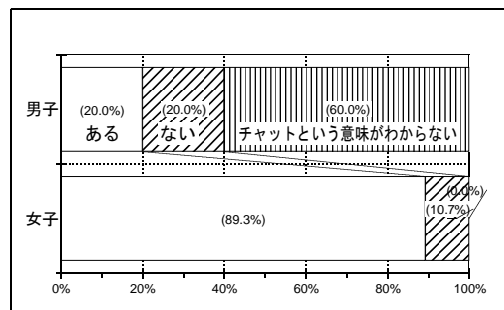


図6 チャットをしたことがあるか

### 3-4 メール

子ども達は、調べ学習の際メールによる質問をするときがある。メールそのものはそれほどむずかしいものではないが、メーラーの操作や、メールアドレスの入力などに問題がある。子ども用には、各種の子ども用メーラーがある。しかし、ホームページ上に mailto にて、埋め込まれている場合は、標準的なメーラーしか対応していない。となると、標準の大人用メーラーを利用せざるをえなくなる。

送受信の考え方や、返信、転送、等の操作が少々ややこしいので指導に手間がかかる。特に時間をとって、全員へのメールについての指導を行っていないので、図7にあるような結果がでた。

また、子ども達が誰に、どのようなメールを送っているかをチェックしないと、チャットから発展して、教育上問題のあるメールを送ったり、送られたりもした。

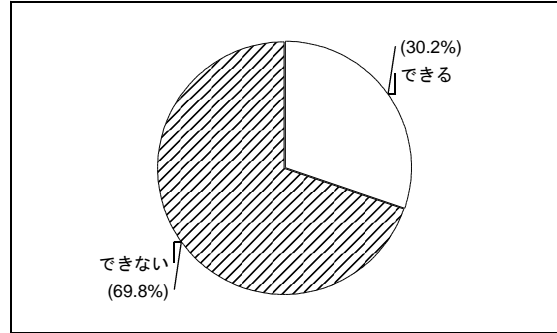


図7 メールを打つことができるか

メールを打つことのできる子どもに、メールについての質問をしたところ、図8のような結果を得た。

メールチェックのわくわく感を感じたり、個人宛のメールアドレスを望んでいる子どもが多いことがわかった。また、本校の通信インフラの整備の悪さから、通信のエラーによる、不安を感じていることもわかった。

これらの子ども達は、何らかの形で特定のメル友をもっているケースが多く、わずか2ヶ月足らずの間（自由にメールが送れるようになってから）に、チャット上でメル友を見つけていることに驚いている。

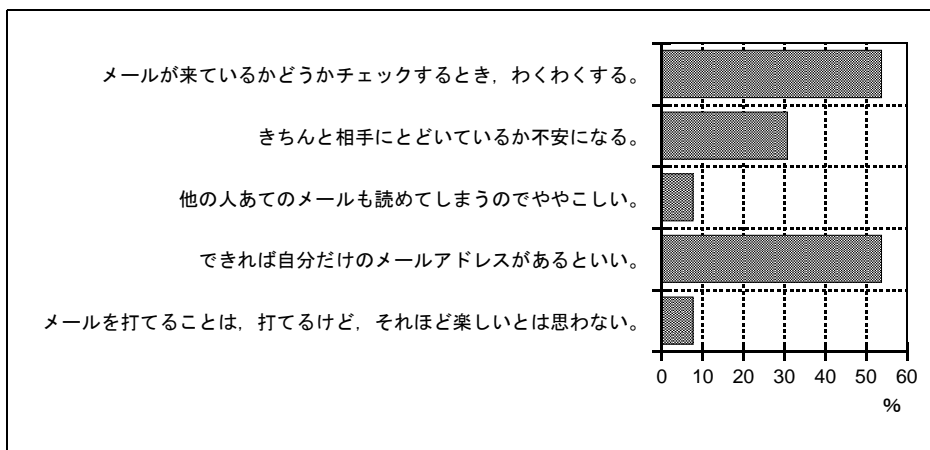


図8 メールについて思っていること

ただ、子ども宛の個人メールは、学校として非常に不安な面が残る。チャットで知り合った個人から、メル友へと発展し、ずいぶん個人的なことを平気で書くようになってしまう。実際、学校の代表メールでさえ、子ども達は個人アドレスのように使っているし、その内容を見ると、かなり個人的なことを書いている。

もし悪意をもった人が利用するならば、いくらでも犯罪に結びつけることができるといっても過言でない。したがって、個人メールに限らず、メールのやりとりはかなりの倫理的指導が必要だと思う。

### 3-5 オンラインゲーム

開放時間帯は、まるでゲームセンターのようなにぎわいを見せている。これは、どこの学校も同じだと思う。ゲームに関しては、男女の態度に差が生じている。(図9) ゲームの是非なども議論される場所であるが、インターネット上でゲームをすることは、リテラシー習得のためだけでなく、授業中に、各種キーワードを検索する方法についての手法を学んだり、友達同士、異学年間で会話を生むきっかけとなっている。

また、ゲームの探し方については、男子は、自分から新しいゲームをどんどんさがそうとするのに対して、女子は、誰かが入れているものを、利用するという傾向が強いことがわかった。(図10) 何か新しいものをさがそうという意欲が強い男子と、

気楽に楽しもうという女子の違いが現れている。

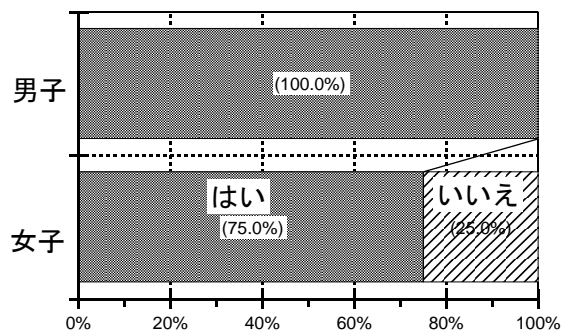


図9 オンラインゲームをしたことがあるか

開放時間帯のゲームは、子ども達の中に直に共通の話題を投げかけ、机の配置の工夫と共に、すばらしいコミュニケーションの場を提供する。机の配置というのは、みんなの画面が見渡せるような配置という意味である。いわゆるコの字配列のことである。これにより、他の子の様子を見ながらできる。

さらに、特に最近少なくなってきたといわれる異学年間のやりとりが見られるのも、学校の中でのゲームならではないだろうか。教師は、学校の中の単なるテレビゲームという感覚を捨てるべきである。

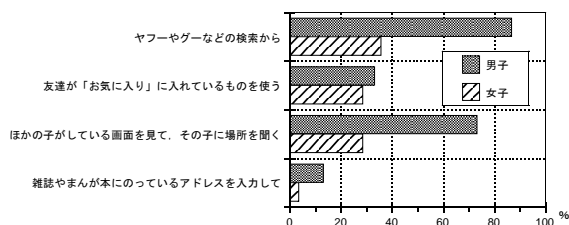


図10 ゲームの探し方

### 3-6 ネット

児童が自由にインターネットをやり始めてから2年半がすぎたが、今までの指導を振り返る意味で、次のような質問を用意し、子ども達がどういう意識を持っているかを調べた。質問の内容は次の通りである。

インターネットのマナーについて一番大切だと思うこと3つに○をつけてください。

- 1 相手のことをよく考えること
- 2 始まるまで長い間時間のかかるゲームは、他の人の通信に迷惑がかかるので、やらない方がいい。
- 3 顔が見えない分、けんかにならないようにていねいに接するのがよい。
- 4 よその学校からのまれたことは、自分のことを後に回しても先にしてあげる方がいい。
- 5 いろいろなやり方を発見したときは、

友達や、低学年に教えてあげる方がいい。

- 6 もし、子供向きでない場所（ホームページ）へ行ってしまったとき、すぐにもどること。
- 7 調べ学習で資料を使わせてもらったときに、相手にお礼を言うこと。

結果は、図11にあるとおりである。男子の解答の多かった1番の答えの「相手」とは、同じゲームをするこちら側の相手という意味であるらしい。つまり、順番を守って、みんなと譲り合いながらするという意味での解答である。パソコンの台数が少なく、導入当初は、かなりの取り合いとなり、けんかをしてしまった経験から、「相手のことをよく考えること」が一番大切だと考えている。

また、チャットを経験している女子では、「顔が見えない分、ていねいに接するのがよい」という解答が多いのはうなずける。

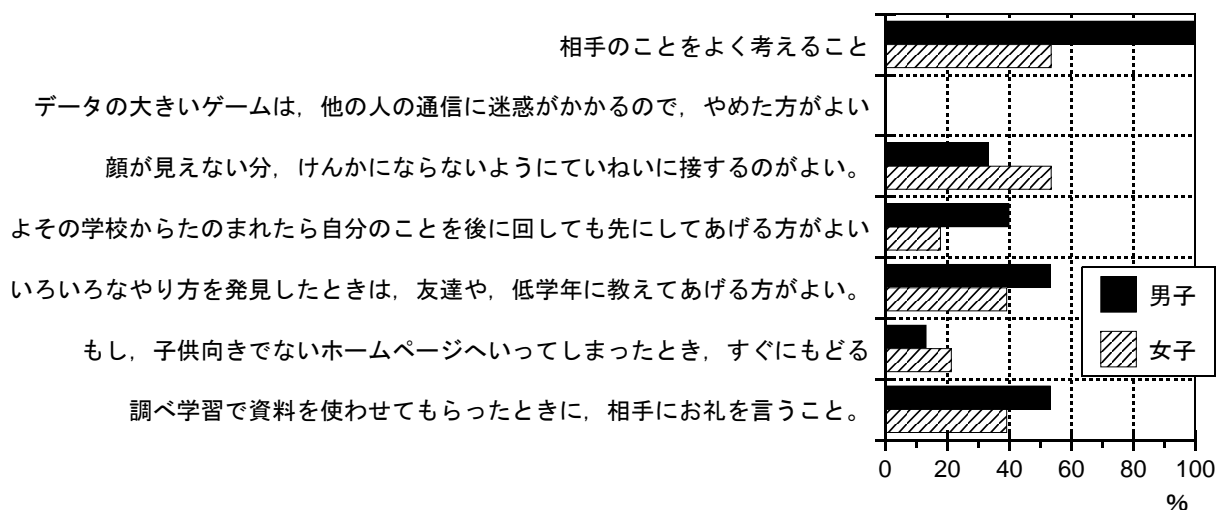


図11 インターネットで気をつけること

ネットワーク上でのマナーを実践で学んだ結果といえる。そのほか解答からは、「よそからたのまれたこと」「いろんなやり方を友達や低学年に教えること」など、インターネットを通じて、いろいろな経験を積み、相手を思いやる心が育ってきているのではないかと思う。

有害情報については、回答上の「子供向きでないページ」という表現自体を、子ども達はあまり意識をしていないようである。実際そういう場面に遭遇していないというのも事実である。これも、コの字配列の机により、誰もが全員の画面を見ることができるといった環境がそれを防いでいることになる。

#### 4 おわりに

各学校におけるインターネットの整備は年を追うごとに進んできている。すでに数年前から接続をしている学校と、今はじめて接続をした学校では、その対応に違いがあつて当然である。しかし、インターネットから流れる情報は、常に現在の情報である。本校のように2年前から30台以上のパソコンが同時に接続できる状態であった場合、今回紹介したような問題が徐々に生じてきたかという、そうではない。ここ1年以内に急激に起こってきた問題である。ということは、今はじめて学校がインターネット接続したとしても、同じような問題がどんどん生じるのは間違いない。しかも、それほど時間をかけずに。

したがって、これらの問題を全教職員が意識し、対応策を考えることは絶対必要なことである。また、社会全体として考えていくことも必要である。

#### 5 参考文献

中川斉史ほか(1999) メディア活用と総合的学習へのアプローチ. 三庄小学校紀要

中川斉史(1998) メディア活用とネットワークで広がる総合的学習. NEW教育とコンピュータ9月号